

平成30年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価表（自己評価）

校 訓	礼節・友愛・創造
学校教育方針	<p>全生寮教育を通して「自他一如の精神（心）」を養い、知恵と勇気と行動力を備えた人間性豊かな人材を育成する。</p> <p>全生寮教育とは、如何なる状況の中でも身を処して誤らない行動の基準を集団（学校）生活の中で体得するものである。</p> <p>【全生寮本旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一、自己のうちに もてる全てを 発揮して 生きよう 一、全ての 他の人を 生かそう 一、全ての 人とともに 生きよう
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 商業および家庭に関する専門的知識・技能を活用して社会に貢献できる生徒を育成する。 (2) 思考力と判断力に基づく主体的な行動と自己管理ができる生徒を育成する。 (3) 多様性を認め共生社会の担い手となる人権意識の高い生徒を育成する。 (4) 仲間と切磋琢磨することで心身共に調和のとれた生徒を育成する。
本校の生活信条	<p>○ 挨拶（島商）しましょう。（心をつなぐ） ○ 掃除（島商）しましょう。（心をこめる） ○ 勉強（島商）しましょう。（向学心をもつ）</p> <p>○ 部活（島商）しましょう。（心身を鍛える） ○ 奉仕（島商）しましょう。（思いやりの心をもつ）</p>
今年度のキャッチフレーズ	<p>～チャレンジ島商2018～</p> <p>より高く、より深く</p>
前年度の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全生寮研修については、計画どおり実施し基本的な生活習慣の確立に向けた指導を実践することができた。全生寮研修で学んだことを日々の生活に活かしていくための指導を充実させていかなければならない。 (2) 家庭学習の習慣化に向けた取組として、1年生では週末課題を実施したが、家庭学習時間の増加や授業中の集中力の向上が見られた。今後、年間を通した指導を行っていかねばならない。また、家庭学習の必要性について生徒達にしっかり自覚させる指導を継続していく必要がある。 (3) 今年度もICTを活用した授業に取り組んできたが、多くの授業で活用されてきている。次年度もICTを活用した分かりやすい授業の実践に取り組んでいきたい。教科による研究授業も実施することができたが、次年度も計画通りに実施し授業力の向上に努めていきたい。 (4) 各担当による職員研修は予定通り実施できた。特に今年度は数年ぶりにAED研修も実施することができた。今後は計画的に実施して、全職員が緊急時に適切に対処できるようにしていきたい。 (5) 校務分掌の見直しに取り組んできたが、4分掌へ統合することとなった。分掌の再編成に伴い、仕事内容の必要性等について検討していきたい。
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣の確立 <ul style="list-style-type: none"> ○全生寮研修の成果を継続し、5つの生活信条を基盤として場に応じた礼儀・マナーを身につけさせる。 ○学習と部活動の両立のためにマイルストーンを活用したスケジュール管理能力を身につけさせる。 (2) 学力の伸長 <ul style="list-style-type: none"> ○思考力を高める授業改善に努め、主体的・対話的で深い学びの実現を推進する。 ○家庭学習の習慣化への手立てを講じ、基礎学力の定着を図る。 ○検定取得を通して学習の到達度を測るとともに積み重ねの大切さや達成感を体感させることで更なる高資格取得へのチャレンジ精神を育成する。 (3) キャリア教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○教育活動を通じた社会との関わりの中で、自己と職業の関連づけを図る。 ○一人ひとりの生き方や在り方を見据えながら、その能力と適性を活かす進路指導を実践することでキャリア発達を支援する。 ○進路日より進路説明会など生徒・保護者に対する情報提供と丁寧な説明を行い進路実現を果たす。 (4) 地域に開かれた学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した教育活動を推進し、郷土愛を育むとともに地域活性化の担い手であることを自覚させる。 ○公開授業や学校行事などの案内を積極的に行い、保護者や地域住民に本校の教育活動への参観を促す。 ○学校説明会や広報誌の発行など広報活動を充実させ、募集定員数の確保を目指す。 (5) 職員研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○実効性の高いICTの活用や主体的な学びに繋がるAL型授業にかかる公開授業（相互参観授業）ならびに研究授業を実施し、教科指導力の向上を図る。 ○特別支援教育や人権教育に関する研修を行い、特性に応じた教育活動の深化を図る。 ○働きやすい職場環境づくりや服務規律にかかる研修を充実させる。 (6) 組織力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が安全で安心して学校生活が送れるよう情報の共有化と対応に努める。 ○安全管理や防災訓練の実施など危機管理体制の整備と意識向上を図る。 ○再編した校務分掌業務の検証を行い、改善に努めることで組織力の向上を図る。

【評価分野】 1 学校経営								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①学校教育目標	学校教育目標の具現化	学科に即した目標を設定し、教職員の共通理解のもとに目標を達成するための教育活動を行う。	商業科…ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、企業活動や流通に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。	1	3.1 (3.1)	3.1 (3.2)	全職員	基礎学習から島商トップまでの体系的な学習ができた。
			情報処理科…ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、情報処理に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。	2	3.1 (3.0)	3.1 (3.2)	全職員	外部と連携した学習活動に取り組んで、良い成果が上がった。
			家政科…生活に関する専門知識と技術を身につけ、生活産業分野に関するスペシャリストとして社会に貢献できる人材を育成する。	3	3.2 (3.1)	3.1 (3.2)	全職員	検定等を通して基礎から応用の技術を身につけさせることができた。
②学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育方針や教育目標等を生徒・保護者・地域等に説明したり、情報を流し、宣伝したりする機会を設け定員確保に努める。	4	3.2 (3.1)	3.1 (3.2)	全職員	オープンスクール等を通して本校をアピールできたと思う。
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	5	2.9 (2.9)	3.1 (3.0)	全職員	検定等必要に応じて補習を行うことができた。
③学年経営	学年目標の具現化	1年 島商生としての自覚を持ち学校生活に 適応させる。	全生寮教育を通して基本的な生活習慣を確立させ、高校生活への適応力を養う。	6	3.1 (3.0)	2.9 (3.0)	1学年主任	全生寮指導から時間が経つにつれて挨拶の声が小さくなっていったと感じる。
			キャリア教育を推進することで進路意識を高め、早期に進路目標を決定させる。	7	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	1学年主任	LHRや進路ガイダンスは、進路について考える良い機会となった。
		2年 中堅学年としての自覚を促し、人格の 陶冶に努めさせる。	日々の授業や家庭学習の充実を図り、学力向上に努めさせる。	8	3.0 (2.0)	3.0 (2.0)	2学年主任	週末課題を継続して実施できた。
			面談等を通じて、早期に進路目標を決定させ、その実現に向けて努力させる。	9	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	2学年主任	夏休み期間中に三者面談を実施することができた。
		3年 最高学年としての自覚のもとに、創造 力に富む心豊かな人間性の涵養を図 る。	規則正しい生活の中で主体的に考え行動する自主・自立の精神を養う。	10	3.0 (3.0)	3.0 (2.8)	3学年主任	集会時のマナーがよくなかった。
			進路指導の充実を図り、能力・適性を生かした進路選択を指導・援助する。	11	3.0 (3.1)	3.0 (3.2)	3学年主任	それぞれの進路については、積極的に取り組んでいた。
④学級経営	学級目標の具現化	学校目標や学年目標に沿った学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	12	3.1 (3.1)	2.9 (3.2)	担任・副担任	LHRを活用したクラス経営ができれば良い。

【評価分野】 2 教育活動								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善ならびに適切な学習指導	各教科で効率的な学習を実践する。	毎日、1時間以上の家庭学習を習慣化し基礎学力の向上を目指す。	13	2.4 (2.3)	2.4 (2.4)	全職員	家庭学習の時間を作ることができなかった。週末課題を課しているが、家庭学習習慣の定着が難しい。継続的な指導が必要である。
			毎学期、ICTを活用したわかりやすい授業を実践する。	14	2.9 (2.9)	3.1 (2.9)	全職員	ICTの活用があまりできなかった。数回の活用だったが、今後は教材を用意して教育効果を高めたい。
		三年間を見通した目標を設定し、計画的な高資格取得を目指す。	各種検定の合格率を上げ、全商検定1種目以上1級を取得させる。	15	2.3 (2.4)	2.0 (2.4)	商業科全員	授業の進度・補習の充実が課題である。また今後、目標の再考が必要である。
			家庭科検定の合格率を上げ、被服・食物・保育検定で1種目以上1級を取得させる。	16	3.3 (3.3)	4.0 (3.8)	家政科全員	検定前に課題を出すなど自ら勉強に取り組む姿勢を作れた。
			英語検定・漢字検定の合格率を上げる。	17	2.0 (2.4)	2.7 (2.6)	英語・国語科全員	実用検定の受験者は増加しているが、合格率は伸びていない。次年度から新方式に変わるので、いち早く情報を収集し対策していく必要がある。
②特別活動	HR活動や生徒会活動・学校行事の充実	生徒自身による自発的な活動を実践する。	各ホームルーム委員の積極的活動と校外内における一人一役を推進する。	18	3.1 (3.1)	3.2 (3.2)	正副担任	校内における活動は推進できたが、今後校外向けの活動が課題である。
			生徒会・家庭クラブ活動を活性化して、地域行事やボランティア活動に積極的に参加する。	19	3.3 (3.5)	3.6 (3.1)	生徒会主任 家政科主任	ボランティア活動に参加する生徒が増加した。
③生徒指導	基本的な生活習慣の確立	全生寮教育の充実を図り、全教職員による継続した指導を徹底する。	授業の折には必ず礼儀作法・服装・学習態度（遅刻時の指導も含む）など具体的指導に努める。	20	3.1 (3.2)	3.0 (3.2)	全職員	毎時間徹底して行うことができなかった。今後も全職員で取り組む必要がある。徹底すれば生徒はできる。
			交通ルールの遵守と自転車の二重ロックの徹底に努める。	21	4.0 (3.5)	3.5 (3.5)	生徒指導主任	立番指導を計画的に実施していきたい。
④進路指導	個々の生徒の能力の伸長と適性を活かす進路指導を図る	三年間を見通した効果的なキャリアガイダンスを実施する。	生徒、保護者への進路ガイダンスの実施と充実を図る。	22	3.0 (3.0)	2.9 (3.3)	担任・副担任 進路指導部主任	副担任として積極的に関わることができなかった。学年別に進路ガイダンス・説明会を実施できた。
			生徒、保護者への進路情報をこまめに提供する。	23	3.0 (2.9)	3.1 (3.3)	担任・副担任 進路指導部主任	副担任として生徒の質問に的確に答えることができた。進路だよりを隔月で発行できた。
			新たな進路先（企業・大学）の開拓を図る。	24	3.0 (3.0)	2.5 (4.0)	進路指導部主任	指定校・指定数求人が増加した。
⑤健康・安全教育	健康や安全に対する態度の醸成	健康・安全についての正しい知識と理解を深める。	健康診断など保健行事を円滑に実施し、生徒の理解に努める。	25	4.0 (4.0)	4.0 (4.0)	保健環境担当	健康診断等、先生方の協力でスムーズに実施できた。
			心身の健康の保持増進を実践できる生徒を育成する。	26	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	保健環境担当	連携を密にし、迅速な対応ができた。
⑥人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	人権教育の学習を通し、全生徒・職員の意識を高める。	27	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	カウンセラー担当	さらに人権教育の充実を図っていきたい。
			生徒理解のための諸検査を実施し、個別面談に活用する。	28	3.0 (2.0)	3.0 (3.0)	カウンセラー担当	諸検査の結果を活用していきたい。
	カウンセリングの充実	カウンセリングマインドを持って生徒の相談に応じる。	29	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	カウンセラー担当	職員間で連携しながら対応できた。	
⑦特別支援教育	特別支援教育体制の整備	特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実を図る。	校内委員会の設置、支援教育コーディネーターを中心に、必要に応じて職員の指導力の向上を目指す研修を実施する。	30	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	カウンセラー担当	研修の機会を増やしていきたい。
⑧部活動	部活動の活性化	部活動の計画的かつ効率的な活動を目指す。	「全員部活動の日」の定着と部活動の活性化を図る。	31	3.0 (3.2)	3.0 (3.0)	生徒会主任	参加率向上だけでなく、活力ある学校づくりに寄与していきたい。

【評価分野】 3 組織運営								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①校務分掌	適切な役割分担・組織的な活動と運営	各自の役割分担を明確にして、適切に仕事を処理する。	校務支援システムを有効に活用し仕事の負担軽減を図る。	32	3.5 (3.2)	3.3 (3.0)	各分掌主任	報告書の作成・発行に役立った。
			学校全体の校務が円滑に推進できるように、分掌相互間の連携を図る。	33	3.0 (2.9)	3.3 (3.1)	各分掌主任	主任ミーティングの時に連携をとっている。4分掌になったので、生徒会主任を入れた方が良い。
②各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	各種委員会の活動の効率化と活性化を図る。	各種委員会での協議結果を、教育活動や学校経営に生かす。	34	3.1 (3.0)	3.2 (3.2)	各分掌主任 学年主任	教育相談等について迅速な対応ができています。
③校内研修	研修体制の確立と実践	職員研修の充実を図る。	全員、年に1回以上はICTを活用した授業を公開する。	35	3.1 (3.1)	3.0 (3.2)	全職員	公開をする機会がなかった。2学期は参観できなかった。教務としての働き掛けも足りなかった。
④教職員教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	各種公的研修会へ積極的に・計画的に参加し、資質の向上と意識改革を図る。	36	2.6 (2.7)	2.4 (2.6)	全職員	校外での研修会へあまり参加できていない。

【評価分野】 4 教育環境								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①学校環境の整備	潤いのある生活環境・教育環境の整備	清掃活動を通じ、協調性や奉仕の精神を養い、創意工夫の心を培う。	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	37	3.3 (3.1)	3.3 (3.3)	全職員	生徒とともに掃除に取り組むことができた。真面目に取り組む生徒が多い。
②施設・設備の管理	施設・設備の安全管理と経費の節減	施設・設備の有効活用を図り、安全点検等の管理を適切に行う。	施設設備の安全点検を計画的に行い、必要に応じて改修や補修を行う。	38	3.5 (3.0)	3.7 (3.3)	事務室	生徒・職員が安心して安全に過ごせる環境づくりを強化していきたい。
			水道・光熱費、通信費等の節約に努める。	39	3.0 (3.3)	3.0 (3.3)	事務室	エコ・オフィス活動を継続していきたい。
③情報インフラの整備・充実	教育活動全般の情報化	情報機器等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンとプロジェクターを使いこなせるように努力すると共に、教科指導などに活用する。	40	3.1 (3.1)	3.3 (3.3)	全職員	苦手な部分があるので、次年度さらに活用できるよう努力したい。
	ホームページの更新	学校の情報発信源とし、PRの手段とする。	ホームページを見やすくし、定期的に更新し最新情報を伝達する。	41	3.0 (4.0)	3.0 (4.0)	教務主任	担当者に負担がかかりすぎないように複数で分担したい。

【評価分野】 5 開かれた学校づくり								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①保護者との連携	PTA活動の充実	積極的に学校を開放し、地域からの信頼と理解を図る。	本校の教育活動を積極的に公開し、保護者や地域から信頼と理解を深める。	42	3.0 (3.0)	3.0 (2.5)	教務主任	大きな行事やPTAの協力は良かったが、もっとPRが必要だと思う。
		PTA活動を活性化する。	PTA総会や諸活動への参加率を上げる。	43	3.0 (3.0)	3.1 (3.1)	正副担任 学年主任 教務主任	個人的に保護者との関わりが少なかった。教務としては大変協力的で助かった。
②地域や関係機関との連携	学校間の連携の充実	他校や異校種との効果的な連携を図る。	県内の大学、近隣地域の高校・中学校との情報交換や連携を図る。	44	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	教務主任	授業の範囲・内容でしか交流できなかった。
	外部講師の招聘	外部講師を効果的に活用する。	地域の人材を専門教科やHR等において効果的に活用する。	45	3.5 (3.7)	4.0 (4.0)	学科主任	外部講師が快く引き受けてくださったこともあり、良い授業が展開できたと思う。
	学校評議員との連携	学校評議員会を充実させる。	運営方針等学校評議員の意見を聞き学校運営に反映させる。	46	— (3.0)	3.5 (3.0)	学校評価委員	学校の頑張りがよく伝わってくる。さらに広報活動を行い、生徒の頑張りをもPRしてほしい。

【総評】

<p>評価の結果（課題と問題点）</p>	<p>家政科では四冠王取得目標10名が、筆記試験で3名が不合格となり7名合格という結果になった。早目の指導計画と生徒への意識づけを行うべきだと感じた。商業科の検定のように補習等の計画を考えていきたい。生徒の基礎学力向上。家政科の生徒が頑張っていることをいかに校外にアピールしていくかが課題である。</p> <p>I C Tの活用がまだまだできていないと思った。進路学習について1年生ももっと自己の進路について考える取り組みが必要だと思った。生徒自身は進路について積極的に調べているので、それをサポートする必要があると感じた。</p> <p>中間考査から観点別評価を取り入れたことで、生徒を多面的に評価できるようになった。</p> <p>評価の項目や目標が細分化されすぎて普段はなかなか意識できないものもあるので、「したか、しなかったか」程度の評価しかできないのが現状である。そのために達成するための努力や過程、取り組みのクオリティなどがどうしても後回しになる。定員割れや学力の低下などの生徒側の問題と、勤務年数が長く年齢構成が高い教員群を考えると目標の再考が必要である。ただ、それにもかなりの時間と労力が必要ではあるが。</p>
<p>来年度の改善策</p>	<p>I C Tを活用した授業を公開してほしい。自分が上手く活用できていないため、他の先生方の授業を通して学ぶ機会があると助かる。</p> <p>観点別評価で生徒の頑張りは評価しても、筆記試験（定期考査）を軽視することがないように注意するべきである。</p> <p>生徒指導部の人数は増えたが、役割分担が上手くできていかなかったので、分担をしっかり行い連携していきたい。</p> <p>各分掌間と各学年間の連携をもっとはかることが大切ではないか。各分掌の教員の配置とバランスを考える必要があるのではないか。</p> <p>商業教育の細かい内容や専門的な部分は、いくら改善しても直接、生徒募集にはつながらない事は事実だと思う。もっとシンプルに資格取得や進路状況、部活動などわかりやすい部分でのPRと、個々の教員の資質やパワーが必要だと思う。10年後に各学科がどんな色を出せるかを考えて動き出すことも建設的であると思う。</p>

平成30年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価 生徒アンケート集計結果

I 調査対象者数 314名(回答数314名)

II 調査回収率 100.0%

III 評価基準各質問に対して、

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない	1: そう思わない(あてはまらない)
(ややあてはまらない)	

項目	番号	内 容	1学年	2学年	3学年	全体	昨年
1 教育活動	1	あなたは島商の努力目標やキャッチフレーズ(より高く、より深く)を念頭に置いて行動している。	3.1	2.7	3.0	2.9	2.8
	2	あなたは積極的にあいさつを行っている。	3.5	3.4	3.5	3.5	3.4
	3	あなたは全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9
	4	あなたはルールやマナーを守り、容儀や言葉遣いなどをきちんと行っている。	3.2	3.3	3.3	3.3	3.2
	5	あなたは日頃から周囲や相手のことを思いやって生活ができています。	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3
	6	あなたは地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.2	2.6	2.8	2.5	2.6
	7	あなたは部活動に熱心に取り組んでいる。	3.4	3.3	3.2	3.3	3.3
	8	先生方は生徒が校則違反をした時、きちんと指導してくれる。	3.5	3.3	3.5	3.4	3.4
	9	先生方は親身になって何事にも相談にのってくれる。	3.0	2.9	3.3	3.1	3.1
	10	島商は進路に関する情報を提供してくれる。	3.2	3.2	3.4	3.3	3.3
	11	島商では命を大切に教育や人権・平和教育が行われている。	3.4	3.3	3.5	3.4	3.4
	12	島商ではボランティア活動など地域と交流する活動が行われている。	3.2	3.1	3.3	3.2	3.2
2 学習活動	13	あなたは進路や資格取得など目標を持って学習に励んでいる。	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
	14	あなたは家庭学習を1日60分以上行うよう努力している。	2.1	2.2	2.3	2.2	2.3
	15	島商の授業は工夫がなされ分かりやすい。	2.8	2.5	2.9	2.7	2.8
	16	島商の授業では教科書以外の補助教材や教育機器等が活用されている。	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1
	17	島商では適性・進路に応じたコースや科目を選択する指導が行われている。	3.3	3.2	3.3	3.3	3.3
3 教育環境	18	島商では教育に必要な施設・設備が整っている。	3.0	2.7	3.0	2.9	2.9
	19	島商は清潔で清掃が行き届いている。	3.0	2.7	2.9	2.9	2.8
	20	島商では健康や安全に関する指導が行われている。	3.2	3.0	3.2	3.1	3.1
	21	あなたは環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	3.0	3.0	3.2	3.1	3.1
4 その他	22	島商の生徒会活動は生徒が中心となって運営している。	3.3	3.0	3.3	3.2	3.3
	23	あなたは学校の出来事を家庭で話している。	3.1	3.0	3.2	3.1	3.1

平成30年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価 保護者アンケート集計結果

I 調査対象者数 314名(回答数312名)

II 調査回収率 99.4%

III 評価基準 各質問に対して

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない(ややあてはまらない)	1: そう思わない(あてはまらない)

項目	番号	内 容	1年	2年	3年	全体	昨年
1 教育活動	1	本校の教育方針や努力目標はわかりやすいものになっている。	3.2	3.2	3.3	3.2	3.3
	2	子供は全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	3.1	2.9	3.1	3.0	3.1
	3	子供は社会のルールや本校のルールを良く守っている。	3.3	3.3	3.4	3.3	3.4
	4	子供は地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.7	2.7	2.9	2.8	2.8
	5	子供は積極的に部活動に参加している。	3.7	3.6	3.5	3.6	3.6
	6	学校では、容儀・マナー・あいさつや言葉遣いなどの指導は十分行われている。	3.3	3.3	3.4	3.3	3.4
	7	学校は子供に関する保護者の相談にきちんと対応している。	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2
2 学習活動	8	子供は授業が分かりやすいと言っている。	2.9	2.7	2.9	2.8	2.9
	9	子供は進路や資格取得など目標を持って学業に励んでいる。	3.3	3.2	3.4	3.3	3.2
	10	子供には日頃から家庭学習を行うように声をかけている。	3.0	2.9	3.0	3.0	2.9
3 教育環境	11	学校は教育に必要な施設・設備が整っている。	3.1	3.0	3.2	3.1	3.1
	12	子供は環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	2.9	2.7	3.1	2.9	2.9
	13	学校は清潔で清掃が行き届いている。	3.4	3.3	3.4	3.4	3.3
4 開かれた学校	14	学校の施設は保護者や地域に開放されている。	3.1	3.1	3.2	3.1	3.1
	15	学校は学校の様子や諸行事に関する情報を家庭や地域にきちんと提供している。	3.1	2.9	3.2	3.1	3.1
5 その他	16	PTA活動や学校行事に進んで参加している。	2.8	2.8	3.0	2.9	2.9
	17	子供は明るく生き生きとした学校生活を送っている。	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4
	18	子供は学校での出来事を家庭で話してくれる。	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2